



大和田小だより

開校明治七年
開校150周年

学校教育目標
かしこく やさしく がんばる子

地域と伝統に支えられ、本年度開校150周年を迎えました。

めざす学校像
子供の自己有用感を实感させ、主体的・協働的な学びを実践する学校
～すべての子を大和田小の光に～

3月号 令和7年2月28日
新座市立大和田小学校
児童数 746名・学級数 27 学級

3月の生活目標
1年間過ごした場所をきれいにしよう
・教室を引き渡す
・机・椅子をきれいに
・くつ箱のほこりをとる

弥生 一年間のしめくくりは、感謝の言葉で 校長 近藤章宏

今月の19日には本年度の最後の縦割り活動がありました。今までは6年生がグループのリーダーとして遊び方を考えたり、1年生を迎えにいたりしてくれていましたが、最終日は来年度への引継ぎのため、5年生が中心になって活動を進め、最後は5年生から6年生に感謝の言葉を伝える場面がありました。またどのグループでも6年生から大和田小の活動をしっかりと引き継いでいってほしいという在校生へのメッセージがありました。こうして本校の伝統は引き継がれていきます。



また、3月3日には子供たちからボランティアの方々へ感謝の手紙をお渡しすることを予定しています。本校では地域の町内会の方やPTAを中心に、登下校の安全パトロール、学校農園の整備や活動にかかる支援、読み聞かせや学校の花壇のお世話など、多くのご支援、ご協力をいただきながら教育活動や環境整備を進めています。学校の内外で活動しているボランティアの方々、日頃からのふれあいもあると思いますが、改めて子供たちから感謝の気持ちを伝える場を設定してまいります。



ところで、【感謝】という言葉を作っている「感」と「謝」、それぞれの漢字にはどのような意味があるのでしょうか。

「感」という字には、「①心が外のもののたらしきによって動く。心が動く。②心が強く動かされる。③耳・目・口などの体の部分に受けておこる感じ。④人の心を動かす」という意味があります。

「謝」という字は言葉という字「言」と、放つという意味の文字「射」でできています。つまり「謝」という文字は、言葉「言」を放つ、あいさつする、などの意味を表しています。相手に何

かしらの意思を言葉で伝えるということです。

この2つの漢字を合わせた言葉である【感謝】とは「相手に対して心が強く動き、そのありがたいという気持ちを言葉にして伝えること」ということです。心の中で感謝しているけれど言わない、というのは【感謝】ではないこととなります。伝えてこそその【感謝】ということなのです。伝えることで初めて成り立つ言葉とも言えます。

日本では、「阿吽(あうん)の呼吸」など古くから「言わなくても察すること」を美德とする文化が根付いています。そのため、面と向かって感謝を述べるのが苦手という方も多いのではないのでしょうか。「黙っていても分かり合える」という日本人の「察する文化」は、人を思いやる意味では大変素晴らしいものですが、その反面、実は気持ちが伝わっていなかったということにもなりかねません。

「ありがとうございました」「お世話になりました」など、ちょっとしたひと言を言えるようにしたいものです。

特に、近い関係の人には、【感謝】すべきことでも、「やってくれて当然のこと」と思ってしまい、ついつい【感謝】の気持ちが薄れて言葉にあらわさなくなってしまうがちです。しかし、近い間柄だからこそ、尚更、【感謝】の気持ちをあらわすことが大事なのだと思います。

また、【感謝】を伝えたいという気持ちを持っていても、照れが先立ち、面と向かってお礼や【感謝】を言葉で表現できないという人も多くいると思います。

新たな生活に切りかわる年度末のこの時期こそ、そういった照れや恥ずかしさを乗り越えるチャンスだと思います。今年度も残すところ一ヶ月。授業日では6年生は15日、1～5年生は17日です。1年間お世話になった方々、過ごした場所、学習で使用した物にも【感謝】の気持ちをあらわして、しっかりと一年間のまとめをしてほしいと思います。